

ジャビットカップチャンピオン大会2023大会約款

本大会はアマチュア規定、及び公認野球規則 2023、競技者必携 2023 を適用し、下記の大会約款と各会場でのローカルルールを優先する。

- ① **審判員** 各連盟の審判部は指定された試合の1時間前までに、出場チームの監督、コーチ等、ベンチに入るスタッフ以外の連盟審判員2名を派遣する。また、審判技術委員は当該審判員が裁定に苦しむときや規則適用の誤り、監督などのアピールに対して協議に加わり直ちに解決する。
- ② **試合イニング** 試合は6回戦とするが、試合開始後1時間30分を経過したら5回以前でもそのイニングを最終回とし、均等回の得点で勝敗を決める。
- ③ **コールドゲーム** (決勝戦は採用しない) 4回終了時10点、5回終了時7点以上の得点差がついた場合はコールドゲームとする。
- ④ **特別継続試合** 制限時間内で日没、降雨などにより5回以前に中止になった場合は後日、継続試合として行う。また、5回を過ぎて同点で試合が中止になった場合も後日、継続試合として行う。投球数に関しては、元の試合で投じた球数を引継ぎ残りの投球数のみ、試合時間についても残りの試合時間のみで行うものとする。
- ⑤ **タイブレーク方式** 6回完了、若しくは試合開始から1時間30分を経過して同点の場合はタイブレーク方式を行う。継続打順で前イニングの最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とし、無死一塁・二塁の状態で行う。タイブレーク方式は1イニング行い、その時点で勝敗が決定しない場合は、もう1イニング同じ条件で行う。それでも勝敗が決定しないときは抽選で勝敗を決定する。但し、大会運営上、タイブレーク方式を行うことが難しいと本部が判断した場合は抽選で勝敗を決定する。
- ⑥ **出場資格** 地区大会で優勝した単独チーム。また、連盟内協議によってチャンピオン大会への参加を許可されたチームの出場も認める。但し、出場権を得た優勝チームが大会期間中に開催される軟式野球連盟主催の上部大会(全日本学童高円宮杯、関東団地連盟関東大会、横浜銀行杯)等に出場、または本大会抽選会前日までに出場する可能性がある場合は、次位チームが出場する。選手登録は地区大会登録メンバーとし、他チームからの補強は認めないが、転校生などの新入部員等は所属連盟の承認を得、抽選会当日までに事務局に届け出て出場選手登録をすることができる。
- ⑦ **投球制限** 全軟連・学童部の投球規定を適用し、投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、一人の投手は1日70球以内を投球できる。試合中に70球に達した場合、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。ボークにもかかわらず投球したものは投球数とする。また、一日でダブルヘッダーや特別継続試合を行う場合や、6回を終了して同点でタイブレークとなった場合、1日70球以内であれば引き続き投球することが出来る。すなわち、通算で70球とする。なお、4年生以下の選手が投手をすることは出来ない。
- ⑧ **ベンチ入り** ベンチ入り出来る者は事前に登録されたチーム引率者(代表者)、監督、コーチ2名、スコアラー1名、マネジャー1名と、選手25名以内(3年生以上)とする。但し、熱中症対策として、保護者(女性)2名以内をベンチに入れることが出来る。また、代表、スコアラー、マネジャー、熱中症対策保護者はチーム帽子とスポーツウエア等(短パン不可)

を着用する。なお、試合前の練習とシートノックは指導者（背番号 28、29、30）が行い、うち 1 名はブルペンでの捕手を認める（試合開始前までの間を許可する）。

- ⑨ **使用球** （公財）全日本軟式野球連盟公認球（ナガセケンコーJ号）とする。
- ⑩ **用具等** 試合中、打者、走者、次打者、ベースコーチ、バットボーイ、ボールボーイは公認の両耳付きヘルメット、捕手は公認マスク、プロテクター、レガース、ヘルメット、ファールカップを着用し、バットは公認マーク入りを使用する。バットは改造、加工したものは使用出来ない。ただし後付けフレアグリップの使用については、専用テープ等で完全に固定・被覆されたならかな形状のものであれば使用を認める。サングラスは大会本部の承認なしに使用できる。ただし、投手はミラーレンズサングラスの使用はできない。また、野手がサングラスを帽子の底の上ののせることを認める。監督、コーチ、選手は同一ユニホーム（Tシャツ可）とする。なお、ベンチ内での電子機器（携帯電話、パソコン、カメラ等）及びメガホンの使用は禁止とする。
- ⑪ **投球時の禁止事項** 投手が投手板に触れて位置についたら、投手の動揺を誘うような声を発してはならない。
- ⑫ **マナー** ベンチ及びスタンドでは笛や太鼓などの鳴物の使用を禁止し、相手チームへの野次や挑発的な行為はしない。同類の行為を続けた場合はチーム責任とし、監督を退場とする。また、チームでゴミ袋を用意してゴミは持ち帰ること。
- ⑬ **その他**
- (1) ベンチは抽選会で決定した組み合わせ番号の若いチームを一塁側とし、試合前のシートノックは後攻のチームから各 5 分間とする。但し、大会運営上、シートノックを行うことが難しいと本部が判断した場合は行わないものとする。
 - (2) 監督・主将は前の試合開始後 60 分を経過するか、3 回終了時までに試合会場の本部に打順表 4 枚を提出し、球審立会いのもと両チーム主将で攻守を決定する。
 - (3) 次試合の先発バッテリーは前の試合開始後 60 分を経過するか、4 回終了以降にグラウンド内で投球練習を行うことができる。この際、指導者が一人、選手の安全管理を目的として付き添いをする可とする。
 - (4) 投手の準備投球は初回 6 球以内とし、次回からは 3 球とする。
 - (5) 両チームの指導者は試合終了後にグラウンド整備を行うものとする。
 - (6) 本大会参加者は全員「スポーツ安全保険」に加入する。また、大会中の事故には同保険の範囲内でのみ対応される。
 - (7) 極端に攻撃が長引く場合は選手の体調を考慮して主催者・審判員は適宜給水休憩を取らせることとする。なお、休憩時間は試合時間に含めない。休憩時間は 5 分を目安とするが、状況により選手の体調管理を優先して設定する。
 - (8) 雷や地震、光化学スモッグ、その他災害等により試合を中断、再開、中止する場合は主催者、会場幹事責任者（開催会場の役員・実行委員）、審判部長（不在の場合は副部長）の三者で協議のうえ判断し、各試合会場の幹事連盟、審判技術委員に通達するものとする。なお、雨天時の試合中断、再開、暑さによる給水タイムは各会場の審判員、または会場幹事連盟、審判技術委員で決定する。
 - (9) 手指の消毒と手洗い・うがいを併用してこまめに行い、感染予防に努める（各ベンチに手指用アルコール消毒液を設置）。
 - (10) 感染拡大予防対策の観点から、以下のことは行わない。
 - ・ 試合開始、終了時のホームベース付近の整列と握手（1 塁、3 塁ファールライン上で挨拶のみとする）
 - ・ グラウンドに痰や唾を吐く行為
 - (11) グラウンド退場後は、各チーム速やかに解散する。

- (12) 緊急事態宣言やまん延防止措置が発出されていても、会場が利用できる場合は対策を講じた上で大会を続行するが、試合会場が利用できない場合、大会は中断あるいは中止となる。
- (13) 大会期間中、下記に該当する場合、そのチームは不戦敗となる。
- ・緊急事態宣言やまん延防止措置が発出され、チームの所属する自治体から区/市外のチームとの試合や遠征などが禁止された場合